

# 我が家の年末年始



横町木の下 両角 眞幸

結婚して二十年が過ぎ、三人の子どもは今年、小中高校をそれぞれ卒業しますが、我が家の年末年始は恒例の行事に溢れています。

十二月の半ばには、町内会の忘年会があります。我が家は一家で、毎年余興を披露します。数年前まではハンドベルの演奏などをしていましたが、なかなか練習の時間が取れなくなったので、最近は合唱を披露しています。

我が家の子どもたちは、この町内会の皆さんに育てていただいておりますので、ささやかな感謝の気持ちを込めて、毎年やっています。

年末の三十日には、私の実家で餅つきです。餅つき機で作るお餅を、のし餅や鏡餅にして、お正月モードが始まります。

大晦日は私の実家でお歳取りです。私はお歳取りの後、消防団の二年詣り警備に出動するのが通例でしたが、ここ二、三年は家族と一緒に過ごさせていただいています。お歳取りのホロ酔いでウトウトしながら紅白を観たり、親子三代で家族マージャンしたり、のんびりと年越しを迎えています。

元日は私の実家でお雑煮を食べて初詣をした後、家内の実家へお年始に出掛けます。

美味しいお酒と手作りのおつまみを持って行くのが恒例で、子どもたちも従兄弟と過ごす時間を楽しみにしているようです。二日は「すり初め」で、義父が懸命にホイップしたトロロを食べて、箱根駅伝の往路のゴールに感動して、帰ってきます。その後、私たち夫婦の仲人をしていただいた恩師の先生のお宅にお年始です。

高校で教鞭をとっておられた先生のお宅には、私たちを含めて多くの教え子たちが集まります。

多い時には四十人近い人が集まり、飲んで食べて話をして、子ども同士もそれぞれ好き勝手に集まって遊んでいます。先生の四人の御息も帰省し、多くの子どもたちの面倒をみてくれます。私たち教え子はこれを称して「お礼参り」と呼んでいます。先生の奥様には毎年ご面倒をお掛けしていますが、とても楽

しく懐かしい時間を過ごさせていただいています。三日は、町内会の新年会があります。前年の役員の方々の労をねぎらい、新しい年の役員を紹介し、ご近所がお互いに新年のご挨拶を交わして、お神酒を少しいただきます。新年会が開きになると、そろそろ箱根駅伝も佳境です。



町内の皆さんに感謝の気持ちを込めて。

## 1年の計は元旦にあり

### 1月6日

新年おめでとう、ございます。一年の計は元旦にありと言いますが、良い計が立ちましたか。我が家では私の生家の習慣を守り、元旦の祝膳の席で家長から年頭の話と、家族それぞれに向けての言葉があります。

社会人としてたくさん経験を積んだ父親が、世界の情勢や人としての在り方などをわかりやすい言葉で話すので、子どもたちは真剣に耳を傾けます。それはテレビや新聞のニュースを耳にする時、それに関して考えた話をしたりして、世界中の困難な立場の人々の事や出来事、また身近な問題などに常に関心を寄せるといって我が家の雰囲気によるからかも知れません。

父親の話に今年の計も決まり、だるまにその決意を書き、清々しい気持ちで感謝しながら賑やかに祝膳を囲む元旦です。皆様にとりまして幸多き年となりますように祈ります。

(上脇)



### ちょっと拝見

## わらべ歌でスキンシップ 心が通い合う「わらべ歌保育」

とがわ保育園



おむつ替えをいやがる未満児さんは、わらべ歌だと自分からやってくる。保育士さんとスキンシップしながら、楽しくおむつ替えができます。

「いっぽんばしこーちょこちょ」「つねってたたいて」「かいだんのぼってちょこちょ・・・(とくすぐる)」



運動会の練習で疲れた2歳児さん。おやつを食べた後、保育士さんとわらべ歌「からすかぎのこ」「お茶をのみに来てください」をやって、ほっと一息。ここでもスキンシップが...

### 社中 しもすわ「三角八丁」見所ガイド ~駅から99分のまち歩き散策コース~

#### ⑦ 諏訪大社秋宮

秋宮は、8月~翌年1月の間、神様がいらっしゃる場所です。毎年8月1日(旧暦では秋)に遷座祭(せんざさい)が行われ、神様が春宮からこちらへ移られます。8月の祭りに「豊作感謝の盛大な神送りの祭り」と考えられており、2月と同様の遷座祭に加え、お舟曳きの行事が行われます。



お舟は、青芝と幔幕で造られた全長約10mの舟の形をしたもので、御神輿が通った後を氏子によって秋宮まで曳かれます。お舟祭りと呼ばれるこの祭典は、「下社のお膝元」下諏訪ならではのものです。

ちなみに、昔の遷座祭は旧暦の1月1日と7月1日に行われていたそうです。明治時代になって新暦が採用され、秋宮への遷座も暦どおり7月1日に行われるところでしたが、氏子や住民から「7月1日頃は養蚕で猫の手も借りたい時期なので、祭日を変更してほしい」という申し出があり、それを受けて祭日が1ヵ月延ばされて新暦の8月1日に行われるようになったそうです。養蚕・製糸業が盛んだった当時の様子を物語る逸話です。

★12月号P16のお名前に誤字がありました。横澤奈津子ではなく横澤奈都子です。お詫びして、訂正いたします。